読売歌壇

小池　光　選

認知病む弟の目はやさしくて芋分け呉れし昔のままに　大阪市　酒井　真夫

【評】認知症になってしまった弟。それでも昔のようにやさしい。食べていた焼き芋を半分こしてわけてくれた。泣かせる。

草の名をよく識る我と鳥の名をよく識る妹たまにランチす　安中市　田口　明子

【評】わたしは植物好きで、草の名前など詳しい。妹は動物好きで、鳥の名前など詳しい。ときどき会っていっしょにご飯を食べる。いくつになっても姉妹仲良し。なにより。

テーブルの魚の傍で愛猫は二墨を狙う走者の眼　山形市　柏屋　敏秋

【評】これは下句がユニークでおもしろい。まるで猫が野球をやっているようだ。すきがあれば盗塁するぞ、大谷選手のように。

真夜中の足元灯が照らし出す老いゆくわれのあはれ素足を　東京都　福島　隆史

身に纏ふ衣料はすべて外国産日本国にて日本円で買ふ　町田市　永井　悦子

この世をば我が世とぞ思うとうそぶいた道長の墓いずれか知れず　大網白里市　土屋　君江

小学校六年間の貯金にてピンクベルトの時計買いにき　仙台市　小野寺寿子

「じいちゃんはどうしてたばこをすってるの」しかめっ面のじいちゃん答えぬ　つくば市　岩瀬　悦子

腕よりも太い藤蔓巻きつけて栃の大木冬山に立つ　秩父市　大野龍太郎

捨てるべく束ねた本の一冊を取り出して読む時に目を閉じ　岩国市　井川　栄子

栗木　京子　選

居乍らに届く範囲に物が増ゆ万葉集から胃腸薬まで　ふじみ野市　小林　久枝

【評】あまり体を動かさなくてもよい範囲に物が並んでゆく。冬はその傾向が強まりそうだ。どれも必需品ばかりだが、胃腸薬とともに万葉集が置かれているのが頼もしい。

シェルブールに着けばいきなり雨が降る笑いたくない不思議な縁　伊賀市　福沢　義男

【評】「シェルブールの雨傘」は六十年程前のフランス・西ドイツ合作の恋愛映画。フランスの港町シェルブールが舞台である。雨との縁をかみしめる作者の姿が若々しい。

月曜の混み合う電車の朝焼けが席取り強者を赤く寿ぐ　市原市　岩政　健司

【評】席を得た人を「席取り強者」と呼び、朝焼けに染まる姿を「赤く寿ぐ」と表したのが独創的。通勤ラッシュの凄さがわかる。

「寒椿」と札結ばれし植木鉢宮尾登美子の和服のような　草加市　新井美智子

ノートルダム寺院有料化反対の声が高まる日本では余り出てこぬ議論　東京都　青山　繁

震災に入院引っ越し四回と波乱の年もはや師走かな　坂井市　中口　洋子

災害が若い芽を摘む輪島塗り漆に浮かぶ金も悲しい　千葉市　松岡　芳博

大東亜戦争下にて戦死せしわが父なりきわれも老いたり　横浜市　深沢喜美子

AIに出来ぬ障子の貼り替えを終えて短い冬の日暮れる　熊本市　甲賀　亨子

生前の母は「義父母を大切に」今しみじみと冬の星降る　松阪市　奥　俊

俳　万智　選

ガラポンのような観覧車を降りる　わたしはきみの何等ですか　那覇市　奥村　真帆

【評】デートした観覧車を、福引などで回して使う抽選器に重ねた比喩が、ダイナミックで面白い。自分が一等賞ではないと感じているからこその、下の句の問いだろう。何等かは偶然で決められるような切なさが滲む。

かみさまのいうとおりって子が歌いカルピスかお茶か決める神さま　大和郡山市　本田　岳

【評】日常を切り取りつつ、ふっと真理に届いたような一首。「かみさま」と子が声にすることによって、神様は現れるのだ。

思い出の写真に日付は欠かせないとろろ汁屋のクリスマスイヴ　静岡市　柴田　和彦

【評】とろろ汁とクリスマスイブの取り合わせ。なるほど日付がなくては……という説得力もあり、ユニークだ。

降るだけで駆けて喜ぶみどりごに雪は真白きおもちゃとなれり　横浜市　中村　杏

赤々と色づくモミジを見上げれば炎の絵文字が空で燃えてる　相模原市　榎本　ハナ

味噌バター炒め！ただいまより先でイントロクイズみたいな速さ　東京都　葉山　あも

四貫の握りの如く四台のクルマが並ぶ斜めの形　横浜市　杉山　太郎

ストライク取った瞬間ボウリングピンの見せたる拍手喝采　横浜市　山田　知明

落ちたての白身は白より透明でそれとは気づかぬ前の片恋　フランス　小仲　翠太

年末になれば渋滞する道路工事みたいな営業会議　横浜市　佐藤　隆司

黒瀬　珂瀾　選

産め産むな皆好き勝手言いながら当の妊婦に「お前は黙れ」　京都市　寺西　和史

【評】問題作です。少子化が様々に議論される昨今ですが、男権的で身勝手な声が多い。女性に出産の労を押し付け、時に妊婦は迷惑だと放言し、さらに女性の主体性を奪う。個人の尊厳のない社会に未来はありません。

書架に射す光は老いた雪のよう今日も『はだしのゲン』を貸し出す　宇部市　常田　瑛子

【評】光の描写から、本たちに宿る長い時間を感じました。戦争の悲惨を伝える名作が読み継がれる。そこに立ち会う厳粛な心です。

自転車で列島かけし正平さん今は彼岸のいずこゆくらん　天草市　野口久仁子

【評】恋多き男として名を馳せた名優火野正平。近年は『にっぽん縦断　こころ旅』の旅人として親しまれた。彼はどこまでも走る。

γ－GTPなら詳しいがチャットGPTはチョット難し　海南市　樋口　勉

地吹雪に蹂躙さるる戸外へと入水するごと踏み出しにけり　北上市　佐々木清志

譲られし席の温みにじたばたと素直になれず夕さりの来る　日高市　柳橋　正人

ジャンプ傘ひらくみたいにかんたんにさようならを告げられて凩　八王子市　吉村のぞみ

晩年と言えなくもない人類に咲いてくれました皇帝ダリア　枚方市　久保　哲也

宵闇に亡きひとたちの顔のごと山茶花の白あまた浮きをり　東京都　浅倉　修

この世から全ての差別をなくしたい気持ちよく言い訳するために　東京都　非鋭理　反

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はせいじんのひ